

木枯らしが吹きはじめ、紅葉前線はまもなく東京・神奈川に近づいてくるようです。日の出の時刻が遅くなると、まだ外が暗いうちに起きなければならないような子もいるのではないのでしょうか。朝、外に出ると、冷たい風が頬にあたります。寒さに負けないぞ！と思いつつも、コートと手袋が欠かせなくなります。

通学路を歩く子どもたちを見ると、背中を丸め、手はポケットに入れて歩く姿があります。あまり感心できる姿ではありませんし、転倒した際に大怪我につながってしまうことがあります。手袋をしていればよかったな、と思うことがないようにしたいです。子ども送り出すときに、「行ってらっしゃい」の言葉と、服装・持ち物について声をかけていただくことが大切です。

【課題】

3年1組の学級だよりに、「日記と共に成長する」という記事がありました。子どもたちの日記を読んで感じる担任の思いが書かれており、最後に「一日のうちの15分間程、自分に向き合い、じっくりと日記帳に向き合える時間が作れるといいなと思います」と結ばれていました。

日記に15分も？と思う方もいらっしゃるかもしれません。

皆さんは、12年間一貫教育の学園に子どもを通わせたいと思った頃のことを覚えていらっしゃいますか。何のための12年間一貫だったのでしょうか。中学校受験のための好ましくない生活をさせるようなことなく、そこで生まれる時間を子どもの成長のために使わせたいと思われた方も多かったのではないのでしょうか。また、他にもいろいろなことをお考えになったことでしょうか。

そして今、そのときから何年か経過して、子どもたちの日々の生活はいかがでしょう。学校から出される課題には丁寧に取り組んでいるのでしょうか。漢字の宿題で子どもが書く字を見て、「丁寧だ・きれいだ」と感じることができますか。「一日のうちの15分」日記を通して自分と向き合うようなことができているのでしょうか。保護者の皆さんが大切だと感じていることは必ず子どもに伝わります。そしてその逆もまた伝わります。

12年間一貫教育の中で、親として子どもと共にある日々を思い、スタートした小学校での生活だったと思います。この小学校での生活をさらによいものにするためには、教職員・保護者そして子どもたちが心を一つにして歩む必要があります。学校生活を中心にして、改めて日々の生活を見つめる時間を作ってみませんか。

【愛の鞭ゼロ作戦（厚生労働省）】

最近耳にすることの一つに、“脳の萎縮”といものがあります。老化（加齢）によるものだと思っていたのですが、それ以外にも、アルツハイマー病、アルコール、タバコ・栄養不足、ストレスなどもその原因となっているそうです。この中で、特に気になるのが「ストレス」であり、その説明には「子どもの頃に強いストレスを受けると、脳の発達が遅れて脳が委縮するとされている」とありました。脳が委縮してしまうのにどのくらいの時間を要するのか、仮に脳が委縮してしまうと日常の生活にどのような影響があるのか私には分かりませんが、昨今話題になることが多くなっている「注意欠如・多動症」などの括りの中にそういうことが原因となっている症状も入れているのではないかと思うことがあります。

表題のリーフレットはインターネット上でも読むことができますが、皆さんに目を通していただきたいと考え、今回はこのたよりと一っしょにお届けします。

ここには、

体罰や暴言は効果があるように見えますが、恐怖により子どもをコントロールしているだけ。

最初は「愛の鞭」のつもりでも、いつの間にか「虐待」へとエスカレートしてしまう。

とあり、さらに5つのポイントが書かれています。

- (1) 子育てに体罰や暴言を使わない。
- (2) 子どもが親に恐怖を持つとSOSを伝えられない。
- (3) 爆発寸前のイライラをクールダウン。
- (4) 親自身がSOSを出そう。
- (5) 子どもの気持ちと行動を分けて考え、育ちを応援。

学校で生活している子どもたちを見ていると、友だちに対して手や足が出てしまったり、暴言を使ったりしてしまう子は自分がそのようにされた経験があるのかなど心配になることが多いです。もともと暴力をふるうことを身に付けて生まれてきた子はいないはずですが、そうさせてしまう原因を作っているのは大人でしょう。私たちも、上の5つのポイントにある親にあてはまることを教師と置き換えて教育活動にあたるのが大切であると考えます。